

第1 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

平成28年3月策定の第3次計画の理念等を継承しつつ、今後の食育に関する取組を計画的かつ総合的に進める。

2 計画の位置付け

- ・食育基本法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画
- ・第6次広島市基本計画(計画期間:令和2~12年度)の部門計画
- ・本市既存の関連計画と整合を取りながら連携して推進

3 計画期間

令和3年度から令和8年度までの6年間

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況

第2次計画の取組を基に、次の(1)から(3)の基本的な考え方の下、主要な取組として重点プログラムを掲げ、計画を推進。

第3次計画における基本的な考え方	主要な取組(重点プログラム)
(1) 「わ食(和食・輪食・環食)」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・わ食の日事業(和食・輪食・環食) ・つながり・つながる地産地消推進事業 ・嚙ミング30運動の推進 ・食と農と水産の体験活動事業
(2) 性別・年齢別等の課題やニーズに応じた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・男性のための食育推進事業 ・食を通じて育てよう ひろしまっ子事業 ・若者世代のための食育啓発事業
(3) 食育推進の担い手間の相互連携、官民連携の一層の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろしま食育ネットワーク連携事業

2 「第3次計画」の評価(一部抜粋)

基本方針・施策展開	指標	目標値	実績値(R2年度)	評価結果の概要
目標	健全な食生活を実践する市民の割合	80%以上	70.6%	・20歳代~50歳代男性、20歳代女性で実践度が低い。
和食の推進	「和食」を実践している人の割合	80%以上	67.1%	・20歳代~50歳代男性、20歳代女性で実践度が低い。
輪食の推進	「輪食」を実践している人の割合	80%以上	69.5%	・20歳代男女で実践していない割合が高い。
環食の推進	「環食」を実践している人の割合	80%以上	79.7%	・20~30歳代男性、20歳代女性で実践度が低い。

3 評価結果等から見えた課題

第3次計画の施策ごとに、食育に関する調査結果や取組状況等の現状の把握を行い、評価結果を踏まえて、課題を整理。

(1) 和食の推進

- ・活力ある「人生100年時代」の実現に向けて、生活習慣病を予防し健康寿命を延伸させるには、生涯にわたって栄養バランスや減塩に配慮した食生活を送ることが重要であり、健康無関心層も含めた自然に健康になれる食環境づくりの推進や若い世代に対する普及啓発の強化が必要である。
- ・全世代における栄養バランスのとれた食事の具体例、規則正しい生活リズムの定着や嚙むことの重要性など、子どもの頃からの生活習慣づくり等についての普及啓発が必要である。

(2) 輪食の推進

- ・ライフスタイルの変化や価値観の多様化に加え、新型コロナウイルス感染症により会食の機会が減っていることなどから、地域や所属するコミュニティ等での「新しい生活様式」を踏まえた食を通じたコミュニケーションのあり方などを検討する必要がある。特に子どもがいる世帯では家族の団らんは重要であることから、ワーク・ライフ・バランスの推進にも配慮しつつ普及啓発を強化する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症により会食の機会や食に関する体験活動等が減っていることなどから、郷土料理や“ひろしまそだち”等の地場産物を生かした料理、食事の作り方や作法など食文化の伝承の機会を絶やさないようにする必要がある。

(3) 環食の推進

- ・食品ロスの削減の推進に関する法律が施行され、国民運動として食品ロスの削減が推進されている。また、食に対する感謝の念を深めていく上で、食を生み出す場としての農林漁業に関する理解は重要である。
- ・本市では「環食を実践する人(食品や食材を無駄にしない、地場産の食材を使うなどの環境に配慮した食生活の実践)」の割合は目標に達しておらず、地産地消や食材を有効活用するための方法等の普及啓発を強化する必要がある。

(4) 新型コロナウイルス感染症感染拡大で見えてきた新たな課題、相互連携等

- ・3つの「わ食(和食・輪食・環食)」ごとに掲げた課題や新型コロナウイルス感染症の感染拡大で見えてきた新たな課題に対応するためには、特に若い世代をターゲットに絞ったデジタル技術を活用した普及啓発や「新たな日常」に対応した食育を推進するとともに、食品関連事業者等や県、広島広域都市圏内市町との情報共有を行うなど、食育推進の担い手間の相互連携による取組を促進させる必要がある。
- ・市民自らが主体的に食育に取り組むことが出来るよう、様々な食育推進の担い手による食育推進運動として、3つの「わ食(和食・輪食・環食)」を推進する「わ食の日」等の普及啓発を強化する必要がある。

第3 第4次計画の基本的な考え方

1 基本理念

食を通じて「健やかな体」と「豊かな心」を育みます キャッチフレーズ 食育で人づくり・まちづくり

2 目標

健全な食生活を実践する市民を増やします

〔総合評価指標〕健全な食生活を実践する市民の割合 目標値(令和8年度)80%以上

3 基本方針

第1次計画以来、基本理念の実現に向けた本市独自の取組として、健全な食生活を進める上での基本的な考え方である、3つの「わ食(和食・輪食・環食)」を推進してきた。

和食	栄養バランスに配慮した食生活、健康的な食べ方の実践
輪食	食卓を囲む家族等との団らん、食文化の伝承、地産地消等の重要性の理解
環食	食品や食材の廃棄の削減、広島の食材の普及



第4次計画では、4つの基本方針を掲げ、引き続き3つの「わ食」を推進する中で、市民の心身の健康を支える食と、その食を支える環境を持続可能なものとする取組を連携して推進するとともに、コロナ禍で見えてきた新たな課題に対応するため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を踏まえた「新たな日常」や、新しい広がりを創出するデジタル化に対応した取組を推進する。

こうした取組を、食育推進の担い手が相互に連携し、全市一体となった広島らしい食育推進運動として展開することで、持続可能な「まち」の実現を目指す。

基本方針1 和

生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

(1) 栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進

(2) 健康的な食べ方(規則正しく、よく噛んで味わう等)の実践に向けた取組の推進

連携

基本方針2 輪 環

持続可能な食を支える食育の推進

(1) 食を通じたコミュニケーションの機会を増やす取組の推進

(2) 郷土料理や広島の食文化への理解と伝承の促進

(3) 農林水産業の重要性を理解し実感する活動の促進

(4) ひろしまの地産地消を普及する取組の推進

(5) 食品や食材の廃棄を減らす取組の推進

基本方針3 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

基本方針4 全市一体となった広島らしい食育推進運動の展開

第4 基本方針に基づく施策展開(別紙)

基本方針1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

市民一人一人が生涯を通じて心身の健康を確保し、生き生きと暮らしていくために、乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージやライフサイクル、多様な暮らしに対応し、切れ目のない、生涯を通じた食育を推進する。

基本方針2 持続可能な食を支える食育の推進

健全な食生活を送るには、持続可能な環境が不可欠であり、食に関する取組の中で、持続可能な食を支える食育を推進する。

基本方針3 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

食育は、体験的な活動も多く、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を踏まえた「新たな日常」に対応した取組が必要であり、「新たな日常」の中で高まる食への関心を生かした取組や、新しい広がりを創出するデジタル化に対応した取組を推進する。

基本方針4 全市一体となった広島らしい食育推進運動の展開

様々な食育推進の担い手が参画し、主体的に食育を推進するとともに、担い手同士が各々の特性や能力を生かして、連携・協働して効果的に食育活動を展開する。また、県や広島広域都市圏内市町との情報共有を一層促進し、全市一体となって食育に係る取組の充実を図る。

第5 計画の進行管理

食育推進の担い手で構成する広島市食育推進会議において、PDCAサイクルに基づき、計画の適切な進行管理を行う。

中間年度となる令和6年度には中間評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行うとともに、最終年度となる令和8年度には、施策の実施状況や効果等を評価し、国の次期食育推進基本計画や市民意見等を踏まえた上で、次期計画を策定する。

第4 基本方針に基づく施策展開

基本方針	施策展開		主要な取組(重点プログラム)
1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進	(1) 栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進 日本が世界有数の長寿国である理由は、主食・主菜・副菜がそろった栄養バランスに優れた「日本型食生活」にあるとも言われています。本市の進める「和食」とは、この日本型食生活を意味します。一方で、日本人のほとんどは必要量をはるかに超える食塩を摂取していると言われており、血圧を低下させ、結果的に循環器疾患を減少させるためには、より一層減塩に取り組む必要があります。このため、減塩にも配慮した「和食」を推進し、健やかな体を育む日本型食生活の重要性を一層啓発します。	ア 「人生100年時代」に向け、健康寿命の延伸を目指したライフステージに応じた取組の推進 <input type="checkbox"/> 全ての市民が栄養バランスや減塩に配慮した食生活を実践することを目指し、乳幼児から高齢者に至るまで、家庭や学校、幼稚園・保育園等、職場、地域等の様々な機会や場面を捉えた「和食」に関する普及啓発 <input type="checkbox"/> ライフステージごとの課題に応じた食事の具体例等を提示など、日々の主体的な実践につながる取組の推進 【子ども・若い世代】 望ましい食習慣の習得、 【働く世代】 減塩、野菜摂取量増加、 【高齢者】 身体状況に応じた栄養摂取 イ 誰もが自然に栄養面に配慮した食品や料理を選択でき、健康になれる食環境づくりの推進 <input type="checkbox"/> 食品関連事業者等と連携した、朝食や中食、外食も含めて、栄養バランスや減塩に配慮した食品や料理を選択でき、健康や食に関して無関心な人達も含め、誰もが自然に健康になれる食環境づくりの推進 <input type="checkbox"/> 職場等で栄養バランスに配慮した食事が入手しやすくなる等の食環境整備などの「健康経営」に関する情報提供	<input type="checkbox"/> わ食の日事業(和食)【拡充】 <input type="checkbox"/> 自然に健康になれる食環境づくり事業【新規】
	(2) 健康的な食べ方(規則正しく、よく噛んで味わう等)の実践に向けた取組の推進 朝食をとることや早寝早起きをする、よく噛んで味わって食べるなど、健康的な食べ方を実践するためには、特に子どもの頃からの基本的な生活習慣づくりが重要です。個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として捉え、様々な機会を活用して積極的に推進します。	ア 子どもやその保護者、若者に対する朝食摂取の重要性の啓発 <input type="checkbox"/> 家庭や学校、幼稚園・保育園等との連携による子どもの朝食欠食をなくすための啓発 <input type="checkbox"/> 若い世代が、栄養バランスのとれた朝食をとりやすい食環境づくりの推進 <input type="checkbox"/> 簡単に準備できる朝食や朝食摂取の重要性に関するデジタル媒体やSNS等を活用した効果的な啓発 <input type="checkbox"/> 朝食を食べない習慣が始まりやすい、大学進学や就職等の機会を捉えた取組の推進 イ よく噛んで味わって食べることの大切さやライフステージに応じた食べ方への支援 <input type="checkbox"/> 健全な食生活の実践において重要である口腔機能の十分な発達と維持のため、乳幼児から高齢者に至るまでの各ライフステージに応じて、よく噛んで食べることの効果の周知や意識づけ、そのための食事時間の確保、口腔機能の状態に応じた食材や料理の選び方についての啓発	<input type="checkbox"/> 食を通じてみんなで育てようひろしまっ子事業 <input type="checkbox"/> 若者世代のための食育啓発事業 <input type="checkbox"/> 噛ミン30運動の推進
2 持続可能な食を支える食育の推進	(1) 食を通じたコミュニケーションの機会を増やす取組の推進 家族等が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図る共食は、食育の原点です。本市の進める「輪食」とは、この共食を意味します。「輪食」を推進し、豊かな心を育むため、共食の重要性を一層啓発するとともに、食事の楽しさを実感する取組を進めます。	ア 子どもがいる世帯に対する家族団らんの重要性の啓発やワーク・ライフ・バランスの啓発 <input type="checkbox"/> 食卓が子どもにとって団らんの楽しさを実感し、食事のマナーを学ぶ重要な場であることへの理解と啓発の実施 <input type="checkbox"/> 家族団らんの機会を増やすなど、企業等との協力により仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に配慮した環境づくりの推進 イ 地域コミュニティ等を通じた共食の取組の推進 <input type="checkbox"/> 地域や所属するコミュニティ等において、「新しい生活様式」に対応しながら様々な世代などと一緒に食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図るなどの食を通じた人との交流の大切さの啓発 <input type="checkbox"/> 地域の祭礼行事等で食事を共にすることは、人々との絆を固める大切な機会であり、世代を超えた食文化伝承の場であることから、様々な行事やイベント等を活用した、広島県の郷土料理や行事食の普及啓発	<input type="checkbox"/> わ食の日事業(輪食)【拡充】
	(2) 郷土料理や広島の食文化への理解と伝承の促進 伝統的な食文化や食生活は、地域独自の歴史や産物と密接な関係があり、多様な食文化を後世に伝えていくことが重要です。広島の食文化の伝承を図り、豊かな心を育むため、子どもや若い世代を中心に、食文化に対する関心や理解が深まるようにするとともに、郷土料理や行事食などへの市民の関心を高める取組を進めます。	ア 学校給食等を活用した郷土料理や行事食の啓発 <input type="checkbox"/> 学校や保育園等の給食献立において、郷土料理を提供するとともに、そのレシピを食育だよりやSNS等に掲載するなどの保護者や市民への啓発 <input type="checkbox"/> 地域の祭礼行事等で食事を共にすることは、人々との絆を固める大切な機会であり、食文化伝承の場であることから、様々な行事やイベント等を活用した、広島県の郷土料理や行事食の普及啓発	<input type="checkbox"/> わ食の日事業(輪食)【再掲】 <input type="checkbox"/> 食を通じてみんなで育てようひろしまっ子事業【再掲】
	(3) 農林水産業の重要性を理解し実感する活動の促進 ライフスタイル等の変化により、普段の食生活を通じて農林水産業を意識する機会が減少しています。日々の食事が農林漁業者などの食に関わる多くの人々や自然の恵みによって支えられていることへの関心や理解を深めることは大切です。食を大切にするとともに、豊かな心を育むため、農林水産業の重要性の理解や、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動の理解に向けて体験活動の機会の提供に努めます。	ア 子どもを始め高齢者に至るまでの幅広い世代に対する体験活動の機会の提供 <input type="checkbox"/> 農林漁業者等と、学校、幼稚園・保育園等の教育関係者を始めとした幅広い食育推進の担い手が連携・協働した、子どもを始め高齢者に至るまでの幅広い世代に対する農林水産業の体験活動機会の提供 <input type="checkbox"/> オンラインでの活動を実体験と組み合わせる等の新たな取組の推進	<input type="checkbox"/> 食と農と水産の体験活動事業
	(4) ひろしまの地産地消を普及する取組の推進 生産から消費までの食の循環を意識し、ひろしまの食材についての関心を高めることが重要です。本市の進める「環食」とは、地産産の食材を活用することを意味します。「環食」を推進し、豊かな心を育むとともに、広島への愛着を深めるため、地産地消や食文化の伝承を進めます。また、地産地消や食文化の伝承が、地域振興や地域交流にも結びつくことを実感できるよう、取組の工夫に努めます。	ア 「ひろしま地産地消の日」の推進など地産地消の大切さの普及啓発 <input type="checkbox"/> 食品関連事業者等と連携し、“ひろしまさだち”農林水産物や、広島広域都市圏の農林水産物を普及する「ひろしま地産地消の日」の取組など、地産地消の大切さを普及啓発する取組 <input type="checkbox"/> ひろしま食育ネットワーク等を活用した広島食材の普及 イ 学校給食等における地場産物の活用の促進 <input type="checkbox"/> 学校給食や保育園等の給食への積極的に地場産物の活用と、そのレシピの食育だよりやSNS等への掲載など、保護者への啓発の推進	<input type="checkbox"/> つながり・つながる地産地消推進事業【拡充】 <input type="checkbox"/> わ食の日事業(環食)【拡充】
	(5) 食品や食材の廃棄を減らす取組の推進 食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々に支えられていることへの理解を深め、作り手への感謝と食べ物を大切にするとともに、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにする「食品ロスの削減」が大切です。本市の進める「環食」とは、この無駄な食べ残しや廃棄をしないことを意味します。「環食」を推進し、食を大切にするとともに、豊かな心を育むため、食品ロス削減の取組を進めます。	ア エコクッキングの啓発や食品ロス削減の取組の推進 <input type="checkbox"/> エコクッキングの普及、食品の販売方法の工夫など、食品ロス削減の取組の推進 <input type="checkbox"/> 消費者が食品表示や保存方法などの正しい知識を持ち、自らの判断で食品を選択するための情報発信	<input type="checkbox"/> わ食の日事業(環食)【再掲】
3 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進	(1) SNSなどデジタル技術を活用した取組等の推進 <input type="checkbox"/> 「新しい生活様式」に対応し、食育に関する啓発の内容や実施方法を工夫するとともに、SNSなどデジタル技術を有効活用した情報発信 <input type="checkbox"/> 特に、20歳代及び30歳代を中心とする若い世代が食育に関心を持ち、自ら食生活の改善等に取り組んでいけるよう、若い世代に対する効果的な情報発信の実施		<input type="checkbox"/> 若者世代のための食育啓発事業【再掲】 <input type="checkbox"/> ひろしま食育ネットワーク連携事業【拡充】
4 全市一体となった広島らしい食育推進運動の展開	(1) 食育推進の担い手の共助・協働による3つの「わ食」の推進 <input type="checkbox"/> 市民の食育に関する関心を高めるため、様々な食育推進の担い手が主体的に連携・協働して、様々な機会や場面を活用し、「わ食の日」や3つの「わ食」に関する情報の発信 (2) 食育推進の担い手間の相互連携の促進 <input type="checkbox"/> 官民が連携した食育推進のより一層の充実を図るとともに、「ひろしま食育ネットワーク」参加団体の相互連携を強化し、本市の地域性、特性を生かした広島らしい食育の推進 (3) 県や広島広域都市圏内市町との食育に関する情報共有の促進 <input type="checkbox"/> 県や広島広域都市圏内市町との食育に係る情報共有の促進及び地産地消を始めとする食育に係る連携した取組の実施		<input type="checkbox"/> わ食の日事業【拡充】 <input type="checkbox"/> ひろしま食育ネットワーク連携事業【再掲】